

アンケート集計結果

みどりの風 南知多病院
医事課 柴田 哲宏

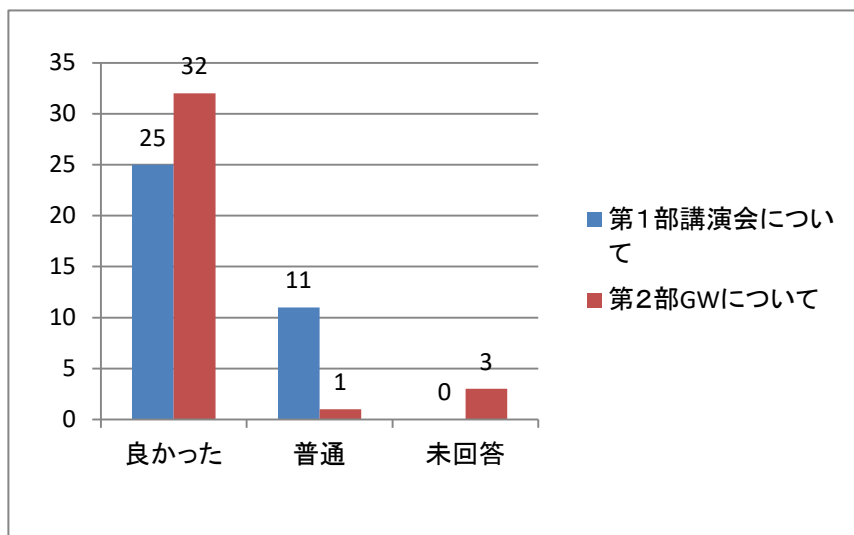
2017年8月31日(木) 14:00~16:30

《第1部》認知症診療・ケア～目下の課題と取り組み～

藤田保健衛生大学 認知症・高齢診療科 教授 武地 一 先生

《第2部》『これからの「ちた医療・介護ネットワーク研究会」を考えよう!』

(1) 本日の内容について



(1-1) 第1部講演についての評価について

認知症薬の使い分けの理由を少し知る事ができた
認知症ケアにおいては気づきの時が一番重要
専門の先生より直接お話をうかがえてよかった
スライドの字が細かいところがあるので大きく見やすいと尚良いと思いました
認知症について、今後どう動いていくか(薬の開発とか)知れてよかった
認知症、抗精神薬について良く理解できました
薬の内容がよくわかりました
武地先生の「認知症カフェ」の本を読みたいと思います
身近な話題が参考になった
講演については、いつも興味のあるテーマで開催していただき楽しみに参加しております
事例のケースがあり色々参考になりました
本人の背景を知るのは大切と思う
高齢者の運転免許について実際のテストのスライドがあり、新しい知識を得ることができた
認知症の病態、ネットワークについてよかった
概略的な内容であったので、焦点が少し弱かった
認知症カフェの件
認知症は関係を破壊するという言葉が印象的でした

(1-2) 第2部 グループワークについて

それぞれの職種の悩みが共有できた
顔の見える関係をつくり今後、仕事の上でネットワークの強みを御利用者に還元したい
他の職種の方と話をすることで面識ができネットワーク作りをする上で良い機会となった
普段の業務で他施設の職員と関わる事は滅多にないので良い機会だと思います
すごく勉強になった。色々な職種の方々の意見が聞けて良かった
地域の課題がよくわかるグループワークとなった
楽しかったです
困り事を聞けてよかった
在宅・医療機関で困っている事など話し合う事が出来たと思います
顔の見える関係ができました

顔を知る関係は必要と思う。そのことが話せた。連携には必要なことだ。
いろいろ話ができよかった
違う職種の方々のそれぞれの立場からの話を聞くことができた
多職種の方がみえ色々な側面からの話が出来た事
いろいろな職種の方とお話しを聞くことができ、知識を構築できました
多職種の方との情報支援ができ良かったです
多職種の方の話が聞いて有用であった
普段なかなか聞くことができない人や職種の皆さんの話しがきけて良かったです
結論がでなくても、各職種が思いや困り事を共有することに意味があると思うので、今後も続けて欲しいです。
グループ内のバランスよかった
発言が多く意見が言いやすかった。しかしテーマがあまりにも広すぎる
普段自分が業務で接することが少ない事務所の方の話を伺うことができた
それぞれの立場・職種からの意見を聞くことができ、互いに求めていることが分かりとても参考になりました。

(1-3) 講師、参加された先生方への質問について

認知症のケースでの向精神薬スタートの時期
とても聞きやすかった
問題がこじれる前にかかわればよいのですが、こじれた方が多く見えます。関わり方を具体的に知りたかった。

(2-1) 今後のGWで話したいテーマについて

認知症の家族をもつ方へのアプローチ
医療介護の現場における様々な「しぼり」について話し合えたらお互いの業務に役立てられると思います
施設紹介はよいと思う
特になし。顔をあわせ話せばいいです
本人家族とサービス事業者との温度差がかなりある場合の支援の進め方について
「社会資源」の具体的な内容についての検証
地域で生活するための話、困り事が話せると良いと思います
現場で困っている事を出しあい、解決できるようなディスカッションができるか否か。ネットワーク作り
あらかじめテーマを決めてほしいと思います
病院との連携、地域での看護・医療・介護の連携
色々な職種の方と話す機会をこれからも設けていただきたい

(2-2) 本会への要望等について

行政機関（福祉課・介護保険課等の参加あればいいかと。質問・提案等話題が広がると思います。）
認知症の薬と向精神薬併用の仕方
認知症発達障害、精神疾患等病気について
知識不足なので認知症に対しての対応を詳しく教えてもらいたいです
行政がもっと参加してほしい。現場や地域の意見をお伝えられる場ができると良いと思います。

(3) その他

認知症の薬と向精神薬併用の仕方